



☆今月の道場☆

日本空手道大濤会

大隅修武会

(鹿児島県鹿屋市)

新たな、より強い自分を発見する！

おおすみ かのや
大隅修武会がある鹿児島県鹿屋市は、九州南東部、大隅半島の中央部に位置し、温暖な気候と豊かな自然を活かした農業・畜産が盛んです。古くから空手が盛んな地域で、県立鹿屋工業高校は、全国大会で複数回の優勝経験があります。同会は、鹿屋市吾平に2002年に設立されました。設立以来、「精神と身体を鍛え上げる」を道場のテーマに活動し、伝統的な武道の形に斬新な組手の技術を取り入れ、競技では全国大会で活躍する選手の育成を目指しています。代表の松元和成先生にご自身の空手歴、道場の沿革、指導法、今後の展望などについてお聞きしました。

■運動は嫌いだった松元先生

大隅修武会は、鹿児島県肝付町(旧高山町)出身の松元和成先生によって、2002(平成14)年に鹿屋市吾平の地に設立された道場です。

代表の松元和成先生は、小学校5年から当時の高山町にあった高山修武会(馬場光広先生・久留米工大OB、修武会宗家・野上修一先生の弟子)に入門し空手を始めました。

「3歳下の弟(松元和昭氏・鹿屋工業高校OB、現全日本ナショナルチーム監督、近畿大学工学部空手道部監督)が、その年の4月に先に入門していました。自宅のすぐ隣に住んでいた親類のおじさんが馬場先生に空手を教えていたという縁で、お前達も空手をせんかと、強制的に連れて行かれ、自分は逃げていましたが(笑)、母にも言われて8月に入門しました」

(松元先生)。

松元先生は、当時は運動はどちらかといえば嫌いで、運動神経も特に良くはなかったといえます。

■毎日空手の練習

当時、道場での稽古は週に3回。「ただ、おじが隣に住んでいたので、道場のない日もおじの指導で練習していました。基本と体力作りが中心



空手を始めた当時の松元先生(左)。中央は次男の和昭氏。右は三男の和寿氏(鹿屋工業高校OB)。

で自宅の庭で裸足でやっていました。辛いとは思いましたが、やめようとは思わなかったです。兄弟で楽しくやれたということですね」。

そして、空手を始めて数カ月の鹿児島県の大会に出場し形で3位に入賞しました。「この入賞で、自分は上手いとちょっと勘違いした面もありましたが、自信もつき、子どもながらに空手が自分に合っていると感じていました」。そして、中3の時に高山町から吾平町(現・鹿屋市)に引っ越したといえます。

■役所に勤務しながらの空手

高校は地元の県立鹿屋高校に進学しました。当初は、空手は道場のみで高校(部活)ではやらないつ



昨年12月には、松元先生自宅裏に新道場を建設。広さ約60平米。冷暖房、シャワールーム、トイレ完備の抜群の環境となっている。



「空手の練習を通じて精神的な強さを得ていくことで、自分に自信が付き強く優しい人間に育つことを目標とします」(松元先生)。



「何事も継続することに意義があります。練習を休まないことで、体力の向上はもちろん、集中力や自信もつくと子ども達には言っています」(松元先生)。



7年前から県連の強化委員長として、鹿児島国体への強化を担ってきた松元先生。「新道場では、通常の練習とともに、これまで数回県連の国体強化練習(形)を行っています」(松元先生)。



大隅修武会の皆さん。「現在は少人数の道場ですが、練習以外にも親子 BBQ大会や自然の家キャンプなど、多彩な行事も数多く行っています」(松元先生)。

もりで入学した松元先生ですが、「来年(1982年)に鹿児島でインターハイがある。力を貸してくれと、当時の部員から言われ、高1の途中から空手を続けることになりました」。高校在学中は、全国大会出場は叶いませんでしたが、高校2年次の県大会では形で優勝実績を持ちます。

高校卒業後は、地元の吾平町役場に一般事務職として就職(合併により現在は鹿屋市役所に勤務)。「役所勤務とともに、道場で指導を手伝いながら選手としても大会には出ていました」。

■指導者として

その後、2000(平成12)年に道場(高山修武会)の代表として引き継ぎ、2002年には新たに大隅修武会を立ち上げました(その後、高山修武会での指導は新西一久先生にバトンタッチ)。そして、昨年末には自宅裏に新道場を建設した松元先生。「修武会宗家の野上修一先生から教わった形を、1人でも多くの人に伝承していきたいという思いから、道場建設を決意しました」。

大隅修武会では、「当初から鹿屋や近隣の方々に、形の練習を中心とした伝統空手を参加しやすい練習体系で指導しています。日々の練習は、基本を重視し伝統的な武道の形に斬新な組手の技術を取り入れた独自のアプローチを取っているため、他の道場とは異なる内容となっています」。

道場の設立以来、私を含め公認資格を持った指導員が、子ども達の特性に応じて技術の向上に役立つ

指導を行っています。初心者から上級者まで気軽に参加できる内容となっています」(松元先生)。

その上で、「今後はシニア世代の方々にもっと入門してもらい、世代の方々の充実した人生を送ることを目指して、生涯学習という面で貢献していきたいと思っています」。

■2023 鹿児島国体

「2017年から県連の強化委員長として鹿児島国体への強化を担当してきました。10月の国体本番まで約4カ月。形・組手ともに地元選手の潜在的な力をどこまで底上げできるかです」。

大隅修武会では、競技で活躍する選手は多くはありません。「大会に出るからには、勝たせたいですし、自分ももっと指導法を勉強して子ども達にしっかり伝えていきたい。全国大会に出るのはなかなか難しいですが、子ども達には、新たな、より強い自分を発見する!の精神で頑張ってもらいたいですね」。

大隅修武会

代表/松元和成 住所/鹿屋市吾平町上名 82-1

創立年/2002年 流派/糸東流

道場生数/約25名(2023年6月現在)

稽古場所/本部道場・アダブテッドスポーツかのや空手教室

稽古時間/ (本部) 月・水・木: 18:00~19:15

(かのや空手教室) 火: 18:30~19:15、金: 16:00~17:00

松元 和成 (まつもと かずなり)

1965年7月15日、鹿児島県肝属郡肝付町(旧高山町)出身。空手は、親類の影響で小学校5年から始める(当時の高山修武会・馬場光広先生)。中学、高校と形・組手双方の選手として活躍し、県立鹿屋高校在学中は、鹿児島県大会個人形で優勝。高校卒業後、吾平町役場(現・鹿屋市役所)に就職。修武会にて指導の手伝いをしながら30代中盤まで国体に4度出場。2000年に先代から道場の代表として引き継ぎ、2002年には新たに大隅修武会を立ち上げ、現在に至る。

体験入門
見学受付中!



(公財)全日本空手道連盟公認教士・7段。(公財)全日本空手道連盟2級資格審査員。公認全国組手審判員。公認全国形審判員。日本スポーツ協会公認空手道コーチ4。鹿児島県空手道連盟強化委員長。日本空手道連合会副理事長。



奥様の明美さん(左・全空連公認2段)は、本部道場での指導のほか、鹿屋市内にてアダブテッドスポーツかのや空手教室での指導も担当している。



大隅修武会から、鹿児島県の強化選手(形)に選出された荒川大悟選手(県立鹿屋高校1年)。